

令和2年9月20日

9月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では晴天が続き、出材は回復してきたが、例年に比べると少な目である。県北地区の入荷は少ないが、鹿沼木材共販所は順調に入荷している。材価が安いと、間伐材中心で良材は少ない。大型製材工場の手持在庫の不足と新材との入替時期もあり、スギ、ヒノキ材ともに買い気配の動きが見えてきた。とくにヒノキ材の4m土台・中目材の入札枚数は多く、引き合いが強くなっている。

群馬では原木出材が減少しており、また虫害がひどく、製材工場は当用買いの手当となっている。工場の土場在庫はほとんど無い状況である。工場の操業は通常の9割程度を維持している。受注は8月に入り増えているが、ロットが細かい。製品市場向けは減少しており、ホームセンター向けも一段落した。土木用材にやや引き合いが見られる。製品在庫は生産ペースを落としているが、売行不振により現状維持となっている。

2. 米材

カナダ私有林最大手のMOSAIC社の伐採は6/24に再開されたが、本格稼働までには至っていない。このため、港頭在庫は非常に少ない。米マツIS級並の対日輸出価格(推定)は8月積み\$830、9月積み\$860と2ヵ月連続の上昇となった。10月積みの上昇も確実な状況である。米国では絶好調である製材品市況を背景に製材工場の原木集荷が活発になっている。米国製材品価格は8月最終週で6週連続の史上最高値を更新した。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(9/4)は\$939/Mで7月末に比べ49.8%アップ。それに伴い、産地製材工場の原木価格上昇に対する許容度は飛躍的に上がっており、今後、輸出向け原木価格への影響が危惧される。また今後、第4・四半期の対日向け製材品のオファーが出てくるが、値上げは避けられないと予想される。

7月原木入荷量は139千 m^3 、1~7月累計で1,106千 m^3 (前年同期比26%減)。カナダからの入荷が前年同期比で78%減。出荷量は154千 m^3 、1~7月累計で1,100千 m^3 (同24%減)。在庫量は減少し183千 m^3 、在庫率は1.15ヵ月。国内米マツ製材工場の荷動きは想定していたよりは良い模様。東京木材埠頭の8月入荷は13千 m^3 (前月比36.2%減)、出荷は16千 m^3 (同14.9%減)、在庫は31千 m^3 (同10.6%減)。

3. 南洋材

サラワク州では8月に入り天候はかなり回復した。インドからの引き合いも回復傾向にあり、FOB 価格も\$10~20/m³程度上昇している。PNGでは全地域の天候が悪いため原木生産は低調だが、中国・ベトナム向けには順調に船積みされている。現地のフリー板の生産体制は問題ないが、需要不足である。9月予想の原木入荷は0千m³、出荷量は7千m³、在庫量は21千m³、製材品入荷は32千m³。

4. 北洋材

中国等の周辺市場の動きは回復しているが、低質材のため単価の高い対日向けの依存度が高くなっている。産地製材工場の原木在庫は通常よりやや少ない状況。日本からの注文減で稼働率は50%程度と見られる。対日カラマツ丸太の引き合いは極めて薄く、\$180から\$150へ下落との噂もある。中国向けエゾマツ丸太もコロナ前と比較して20%下落したが、中国需要に支えられて動きは活発化している。アカマツ完成品は底値ムードにあるが、日本側の買い気は薄い。アカマツ原板のオファーは当面なし。現地挽き完成品の8月の荷動きはお盆休みもあり低調に終わった。在庫が捌けず、新規仕入れを遅らせている。国産完成品も現地挽き同様に一般向けだけではなく、DIY向けも8月は低調に終わった。国内各メーカーともコストの高い原板在庫の処理に頭を悩ませている。9月予想の原木入荷・出荷量とも2千m³、在庫量は13.5千m³。製品は入荷量(東京+川崎)10千m³、出荷量20千m³、在庫量59千m³。製品在庫はピークを越えたものの依然高水準である。

5. 合板

合板用原木の国産材はメーカー減産による入荷制限が続いている。価格は弱含みのまま。ロシア材の価格は横ばい推移だが、当用買いの状況。米材は弱含みのままで落ち着いている。南洋材は出材に大きな問題はない。

7月の国内合板生産量は23.1万m³、うち針葉樹合板は22.3万m³、出荷量は23.5万m³で、在庫量は16.0万m³、うち構造用合板の在庫は13.6万m³となり、2ヵ月連続の減少となった。針葉樹合板は各メーカーの減産体制の継続により在庫量が減っており、荷動きも少し回復している。価格も下げ止まり感があり、落ち着いた状況になっている。輸入合板の荷動きは落ち着いているが、先行き不透明なことから当用買いの状況に変化はない。7月合板輸入量は15.8万m³で、今年一番の少ない量となった。マレーシア、インドネシア産とも大幅に少なかった6月よりも少ない入荷量となった。インドネシアでは悪天候

の影響で一部地域で原木供給に支障が出ているが、大きな問題はなく操業。マレーシアは天候の回復により出材は徐々に上向いているが、受注が少なく低調な状況である。

6. 構造用集成材

8月のラミナ入荷は適正量であった。9月入荷は現地メーカーの夏期休暇によりオファーが少なく、入港も通常より少ない。国内メーカーでは荷動きの不透明感により年末にかけて仕入れを絞るところが多い。第3・四半期の契約分のラミナが今月から入荷するが、円安の影響から第2・四半期価格に比べ、輸入コストは今後高くなると見込まれる。輸入集成材の第4・四半期交渉も前回に続き、長引くものと予想される。大手サプライヤーは収益性の悪化から減産措置を取っているが、価格は下げることなく、横ばいでの交渉が見込まれる。輸入集成材の梁、柱の入荷増で各社、契約を見送ったため、年末にかけての入港量は少なくなる模様。

7. 木材チップ

集中豪雨による林道崩壊で出材停止があったが、徐々に復旧している。解体材の入荷量は盆休み前に減少したが、徐々に回復している。製紙用チップは一部製紙会社の操短が残るものの、大型定期修理の終了で消費量は回復傾向にあり、在庫量は減少。燃料用チップの消費量も徐々に回復しているためタイト感がある。

8. 市売問屋

8月の暑さと新型コロナウイルスの影響で静かな動きであった。価格は弱基調で推移。構造材は国産材、外材ともに値を下げて売れない状況である。造作材は仕事が少ないため当用買いの域を出ていない。増改築の細かな仕事もコロナの影響で控えているユーザーが多いようだ。

9. 小売

8月中旬以降、新型コロナウイルスの影響もあり、製品市場・センターとも取引が減ってきた。事態が一向に上向く気配はなく、需要期となる秋以降の先が見えていない。業者間の情報交換の機会も減り、周りの状況の把握が難しい。スギ、ヒノキ構造材ともに荷動きは低調で価格は弱含み。米ツガ、米マツ現地挽き製品の入荷量は少ないが、市況が停滞しているため品薄感を感じられない。国内挽き製品の一部に品薄感がある。価格は保合。欧州材、ロシア材の在庫は安定してきているが、依然として舞台やイベント関係の仕事が動かず、荷動きは低調で価格は弱保合。合板価格は底を打ったと言われるが、なかなか販価に反映できず保合。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和2年9月20日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	↘	↗
北洋材	丸太	→	↘	↘
	製材品	↘	→	↘
南洋材	丸太	↘	→	↘
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸 入 量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	→	→	→

3. 価格動向

樹材種	形 状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	↗
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	↗
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	↗
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	↗
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	↗
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	↗
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16" 13'	→
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	↗
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	→
		アカマツ (KD) 16×40上級	→	
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	→
		ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	→	
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	→
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→